

「SANBE でクリスマス！」

1 趣 旨

- ・家族に体験活動プログラムを提供することで、家族の絆を深めるとともに、「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。
- ・親子で一緒に活動することにより、親子活動の楽しさを知ってもらう。

2 事業の概要

- (1) 期 日 ① 令和元年 12 月 14 日 (土) ～15 日 (日) <1 泊 2 日>
 ② 平成元年 12 月 21 日 (土) ～22 日 (日) <1 泊 2 日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 協 力 エムエフエス(株) (西洋フード・コンパスグループ)
- (4) 対 象 小学生とその家族 (幼児も可)
- (5) 参加者 ①88 名 (子ども 47 名 大人 41 名) 募集 100 名 応募者数 110 名
 ②100 名 (子ども 58 名 大人 42 名) 募集 100 名 応募者数 158 名
- (6) 日程・研修内容

13:00 13:30 14:45			～	16:30 17:10 17:30 19:00			～	20:00 22:30 6:30 7:00 7:40 9:00 9:30			～	11:30 11:45							
1 目 (土)	受 付	は ご ま の 会	〔選択活動〕 A：木エツリーづくり 木材を組み合わせて、オリジナルツリーをつくろう♪ B：木の実のリースづくり ぶどうのツルでリースをつくり、木の実に飾りつけをしよう♪			タ バ の こ い	タ 食 ・ お 風 呂	クリスマスパーティー (キャンドルのつどい) キャンドルの灯りの中でクリスマスを満喫しよう！			2 目 (日)	起 床	朝 の こ い ・ 清 掃	朝 食	退 所 点 検	クリスマスケーキ作り 生クリームやフルーツを使いケーキをデコレーション♪ つくって食べちゃおう！		お わ り の 会	解 散

3 事業の特色

① プログラムデザインのポイント

メインターゲットは小学校 1～3 年生とその家族を設定した。クラフト体験・ケーキ作り体験を通して、道具の危険性を理解し、安全に道具を管理し活動を楽しめるようにした。また、クラフト材料は、周辺の施設の協力のもと三瓶地域で採れる自然素材を使い、自然が豊かな三瓶地域の魅力を感じてもらうきっかけとした。

2 日間を通して試行錯誤しながら創作・調理活動をし、ひとつの物を作り上げたときの達成感を、親子で一緒に味わうことが出来るようにした。

② 運営 (連携) のポイント

クラフト活動は『はじめてのものづくり』をテーマに、参加者の年齢に応じて、時間内 (約 1.5 時間) で完成できるような易しい活動内容にした。地域連携プログラムの連携施設の協力を持って、「木エツリーづくり」は、木工館にて、予め木材をカットした木エツリーのセット材料を用意してもらった。また、「木の実のリースづくり」は、桃太郎農園にて、幼児・小学校低学年の参加者が簡単にリースを作成できるよう、細く、柔らかい蔓を用意してもらった。

夜のクリスマスパーティーでは、事前に学生スタッフと打合せを行い、学生スタッフによる企画・運営により、クリスマスの歌やゲームを取り入れるなど、クリスマス仕様のキャンドルのつどいを実施した。また、参加者にサンタの帽子を配布したり、会場に装飾を施したりするなど、クリスマスの雰囲気演出することを心がけた。

クリスマスケーキ作りでは、事前に食堂と、ケーキの材料・工程などを話し合い、参加者の独創性を発揮できるよう、ケーキ生地を伸ばしたりカットができる、めん棒やクッキングシートなどの道具・材料を用意した。また、食堂（パティシエ）にも、昨年とは違うケーキの見本を用意してもらった。

③ 広報のポイント

昨年度、島根県内、広島県内（三次市）の各小学校1～3年生を対象にチラシを配布したところ、募集人数を大幅に超える応募があった。高いニーズがあるものと考え、今年も昨年同様の広報先・対象学年とした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	95	5	0	0
プログラム	95	5	0	0
運営	95	5	0	0
職員の対応	95	5	0	0

(%) (2) 参加者の声

- ・幼児のいる家族でも参加できるイベントは少ないので今後も取り入れてほしい。
- ・学生スタッフさんのゲームも面白くステキな時間が過ごせました。
- ・いろいろなファミリーと話ができてよかった。

5 成果と課題

《成果》

- ・早寝早起き朝ごはんの基本的な生活習慣につなげていくことを伝えたため、参加者は時間を意識して行動し、すべてのプログラムを滞りなく進めることができた。
- ・今後「自分の家でもやってみよう」と思えるような体験活動を提供できた。また、親子の交流を通し、各参加者独自の作品を創る事で、親子活動を促進するきっかけをつくることができた。
- ・学生スタッフにプログラムの運営協力を取り入れたことにより、参加者と学生が関わる時間が多くなり、結果ボランティア対応の評価が高くなったと共に学生の育成にも繋がった。

《課題》

- ・「木工ツリーづくり」は、木工館と連携して取り組み、初めて提供したプログラムである。初参加・リピーターの参加者関係なく選択をしていた。(申込の約80%は「木工ツリーづくり」を選択) 今後も、魅力的なプログラムを提供できるように、従来のプログラムの改善や、新しいプログラムの開発を行っていきたい。



(担当：事業推進係 竹田 幸・狩谷順子)